学校だより　令和４年５月 31 日

夢中がいっぱい左近山の子

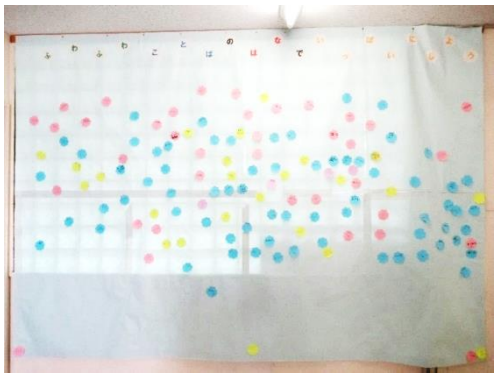
横浜市立左近山小学校 Sakonyama

～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来(公/開)～　６月号

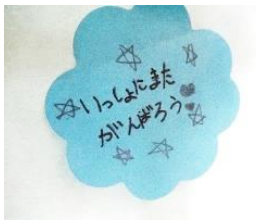
思いやりの花をいっぱい咲かせよう

副校長　　上床 健太

新しい年度がスタートして2か月が経とうとしています。私自身も左近山小学校に着任して２か月になりますが、その2か月でまず感じることは、子どもたちが元気いっぱいの明るいあいさつができるということです。廊下ですれ違うと「おはようございます」「こんにちは」等と元気いっぱいのあいさつをしてくれます。また、放課後等に所用で地域に出ているときも、私の姿を認識すると、「副校長先生、こんにちは」と声をかけてくれます。そんな時は、とても気持ちがよく元気が湧いてきます。先日は、朝の見守り当番をしてくださった保護者の方から「よくあいさつができますね。気持ちがいいです。」と登校の様子を伝えていただきました。また、学校訪問で来校し、朝の登校の様子を見てくださった教育委員会の指導主事の先生からも「元気なあいさつが素晴らしいです。」と言っていただきました。その話を聞き、とても誇らしい気持ちになりました。



「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」など短い言葉ではありますが、明るく元気に言葉をかけられると、うれしい気持ちになったり、元気になったりします。このようにあいさつを含めた言葉には、人を元気にしたり、喜ばせたりする大きな力があると思います。逆に SNS などの誹謗中傷による悲しい事件にも象徴されるように、言葉が鋭い刃になることもあります。もちろん人に対する言葉は、前者の相手を思いやる温かい言葉（ふわふわ言葉）を使い、後者の相手を傷つける冷たい言葉（ちくちく言葉）を使わないようにしなければなりません。子どもたちのかかわりの中でも、ちくちく言葉を極力なくし、ふわふわ言葉であふれるようにして、誰もが安心して生活できるようにしていかなくてはいけません。



右上の写真は、昇降口に掲示してある「ふわふわ言葉の花でいっぱいにしよう」という取り組みの掲示物です。この取り組みは、全校で行われており、道徳の時間に「ふわふわ言葉とちくちく言葉」の学習をします。そこで学んだり、考えたりした「ふわふわ言葉」を花形の色とりどりの画用紙に書いて、掲示してふわふわ言葉への意識を高めていこうというものです。掲示ばかりでなく、学校生活の中にふわふわ言葉があふれるよう支援していきたいと思います。ご家庭においても、言葉遣い、相手への思いやりについて、折にふれてお話をしていただけたら幸いです。今後とも、教育活動へのご理解、ご協力をお願いいたします。

先日、地域の方からお電話があり、「ジャンボ公園の近くで、自転車が転倒した際、公園で遊んでいた男の子たちが、散らばった荷物を拾って、助けてくれました。そのお礼を学校に伝えたくてお電話しました。」ということを伝えてくださいました。その方は、とてもうれしそうに話してくださいました。電話を受けた私（副校長）もとてもうれしい気持ちになりました。人を助けたいという思いやりの気持ちと、それを実行した行動力が素晴らしいと思います。